

# 令和4年度第2回スポーツ団体組織統合検討会議 議事録

日 時：令和4年8月10日 16時00分～18時00分

場 所：駅前交流プラザよろーな会議室4

<出席者>

石川孝夫（名寄体協）、遠藤和之（名寄体協）、安澤豊（名寄体協）、名和谷香代（名寄体協）、山田典之（名寄市議会）、山崎真由美（名寄市議会）、遠藤貴広（Nスポーツコミッション）、黒井理恵（Nスポーツコミッション）、加勢雅善（NPO 法人 ETIC./外部人材）、松澤大介（名寄市）

## 1. あいさつ

（事務局 名寄市 松澤）

当検討会議では将来スポーツによって市民に何をもたらすことができるのか、建設的に前向きな議論ができればと考えております。事業を何のために行うのか、ビジョン形成も大切になっていくと思いますが、よろしく願いいたします。新しいことをするあたり、リスクもあるかと思いますが、それぞれが取り組んでいる事業を掛け合わせてシナジーを生み出すことができるのではと考えています。

本日のゴールは現時点での世界や課題を共有しあうこと。名寄の未来をどのように考えているか、どうすればできるのか、に注力して考えていければと思います。会議体でやるべきことは次の3つです

- ① 名寄市とスポーツの未来について考える
- ② 私たちの持っているものを見つめてほしい未来の実現に向けて考える
- ③ その未来のためにどんな組織を作るか考える

## 2. 自己紹介

参加者より自己紹介を行った

## 3. ビジョン形成に向けた対話

（名寄市体育協会 事務局）

組織が統合されていることを前提に進めていくにあたっては、今それぞれの団体がやっている事業のすり合わせをしていくことが重要なのではないかと。

→（事務局）

市民のために行っているそれぞれの事業をさらに良くしていくための会議だと思っている。

SWOT（強み・弱み・機会・脅威）分析の紹介。3つの団体を理解して統合していくことが大切。次回は現状の擦り合わせを行っていく。

また、統合を行っていく流れの中で必要な具体的な調整事項もやっていく必要であると考えている。

（事務局）社会的な変化についての要素として挙げられるものは

→（スポーツデータバンク（株） 石塚代表取締役）

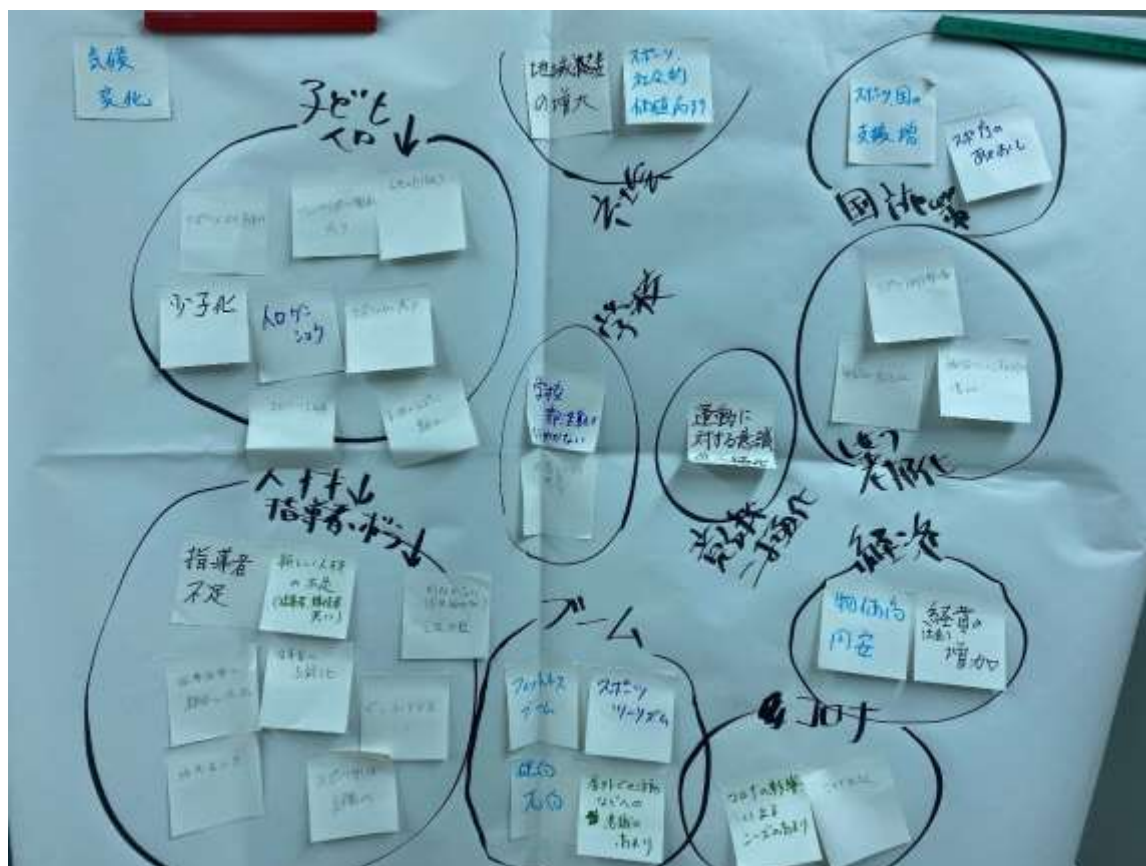
スポーツ庁が発足した背景よりスポーツ庁に情報が蓄積され始めている。地域課題や社会課題は様々ある。スポーツの力を活用する点において、典型例として、スポーツツーリズムという観点では、外から

来てもらう政策があったが、新たな変化として、スポーツを通したまちづくりなどが最近の変化としてある。日本のスポーツ文化を継承してきた学校部活動において、先生に代わって誰が指導するのか、学校単位からどのように維持するのか、地域スポーツをどのように良くするのか、などが挙げられる。

#### 4. 討議事項

現在感じている、スポーツ周りの変化や課題について

- ・子どもの減少
- ・指導者、ボランティアが減少（地域格差の増大が生まれている）
- ・スポーツのムーブメント（スポーツの社会的な価値が高まり、屋外の活動やアウトドアツーリズム、フィットネスなどの盛り上がりがある。）
- ・国の施策（スポーツの支援が増大し、スポーツ庁のサポートが増えている）
- ・施設の老朽化
- ・学校周り（部活動の地域移行）
- ・意識の二極化（運動に対しての意識の二極化）
- ・経済（物価高、円安、経費増）
- ・コロナ



以上